



【2019-02-06】

遊道楽歩（雑感）

書を友に、酒を楽しみ、
人生を味わう

今週の雑感

夫婦とは、晩年こそ充実

長野修二

夫婦とは、晩年こそ充実

この頃は熟年離婚が増加しているようですが、そういえば、身近にありました。

それでもデータからみると増加しているわけではないそうです。ただし、熟年でも70歳以上は増加傾向にあるようです。離婚される条件が十分備わっている私自身のことは、あくまでこれからというだけかも知れませんが、また、妻の言い分も相当違うという前提で私の夫婦観を書いてみたいと思います。

まず、結婚の前提に関して言えば、年齢を重ねてもかわいらしい女性（このことは主観ですから一般化できないと思います）でしょうか。

別な言葉で言えばたいしたことはありませんが、ただただ性格がよいといったところでしょうか。

これまでの人生の中で自分の感覚に合う女性は二人でした。最初のひとりは、結婚の約束をし両親にも紹介しましたが、私が主体となって二人で起こした問題のため破談になりました。このとき二度と結婚の対象となる女性は現れないだろうと、苦闘しながら生きていたように思います。まさに理想（自分で理想化していた？）の女性でした。その後、自分が理想とする女性と巡り会えたことは「運」としかいいようがありません。

私の結婚観は、まず年齢を重ねて歳をとったときの姿をイメージします。

若いときの容姿などは、どのようにきれいな女性でも年齢とともに変化していくものです。

その点、性格は年齢を重ねても変わることが少ない部分ではないでしょうか。

あかちゃんや動物などに接するときのなにげない仕草からその女性のやさしさをみていたような気がします。

なぜなら、このような振る舞いは、人間の本質的部分で変化が少ないものだと感じていたからです。

実際、このようなやさしさの部分は、子育てのときに存分にその

魅力を発揮してくれましたし、二人の息子の成長は、まさに妻の

おかげだと、考えています。

私のようなどうにもならない人間にとって妻の存在があったからこそ家庭は和やかで笑顔が絶えないものになりました。

日頃、仕事を優先する私のような人間にとって家庭は大事なものののですが、実際の生活はそれに反比例するように仕事に没頭したものです。

その分、日々の子育てはほとんど妻任せの状態です。

今の時代であれば、もっとも輦轡を買う男ということになります。

子育てが上手だといってもベタベタした子育てではなく、子供たちと適切な距離を保ち、勉強に対しても自由さを享受させ、子供たちの自主性を尊重していくという愛情のかけかたが、私にはいたくうれしく感動的でした。

私や子だもたちががみがみうるさく言わないことも心地よかったのでしょうか。

傍でみているだけで楽しくなる子育てでした。

犬の世話も同様でしょうか。

愛情豊かな犬に育っていましたから、人間の子供たちと同じように育ててくれていたように感じます。

そんな妻の苦労を少しばかりみてただけですが、成長した子だもたちをみるにつけ妻に対する感謝の気持ちは大きくなっていくものです。

なにごとにも自由さを尊重してくれる姿勢や苦労を乗り越える力強さに長い年月を経ることで愛情は深まっています。

男の晩年の充実は、妻の子育てをみて子供たちの成長した姿を通して、実は、自らが成長させてもらったことに気づくことでしょうか。

そして男（私自身）が成長したことで夫婦は晩年において充実した人生を迎えることができているのかもわかりません。

